

保護者の皆さま

ご存知でしょうか、昨秋、本学のキャンパスがテレビドラマの舞台になったことを。「すべての恋が終わるとしても」というドラマの初回放送でした。

このキャンパスは、初代学長で建築学の巨人、故・吉武泰水先生が中心となって構想されたもので、外の建築家の方々が来られても例外なく「良いキャンパスですね」と仰られます。先のドラマの制作陣もその素晴らしさに気付いてくれたのだと思います。

本学の設立は1989年ですから、まもなく開学40年です。これまで多くの教職員が、保護者の皆様のご理解とご支援を賜りながら、未来をデザインする若い人材を育てる方法を探求し、それを繰り返す中で独自の伝統を築き上げてきました。そして、この自慢のキャンパスが若人を育むための格好の“場”になってきたのです。

皆さまのご関係の在校生は、この伝統の上に立って、新しいことを学び、身に付け、新しい人間関係を育みつつあります。その一端は、本学の今を伝えるWEBサイト等でもお感じ頂けるものと思います。

本学のすべての教職員の共通する目標は「“学生の未来”をデザインする大学」です。もちろんその主役は在校生の皆さまですし、ご家族は引き続き彼らの若い才能を後押しするでしょう。私たちは、在校生の皆さんの「デザインする」力を育てる“場”を様々な側面から充実したものにしようと努め、在校生の皆さんと一緒に「“未来”をデザインする大学」になればと強く願っています。

本学の教育施設などの充実に日頃よりご尽力賜り深く御礼を申し上げます。明日を見通しにくい現代社会においても、学生の皆さんに“未来”をデザインする力を十分に身に付けて頂くべく、本学は伝統の上に立って新たな試みに更に取り組んでまいります。

2026年7月3日

神戸芸術工科大学 学長 松村 秀一